

主催 東北福祉大学
共催 認定NPO法人 大阪精神医療人権センター
後援 一般社団法人 日本福祉のまちづくり学会

小さな声の人が地域の担い手になるまちづくり

—イタリア・トレント市“ファーレ・アッシメーレ”と
倉敷市真備町“岡山マインド「こころ」”の取り組みに学ぶ—

日時：2024年4月8日（月）14:00—18:00（開場13:30）

文字通訳
がつきます

場所：グランフロント大阪北館タワーB10階ナレッジキャピタル
カンファレンスルームタワーB RoomB06+07（先着70名）
オンライン会議システム（先着100名）

日伊逐次通訳
がつきます

内容：【1】 イタリア・トレント市 “ファーレ・アッシメーレ
（みんなでやろう！）”の20年間の取り組みとその意義
元トレント市精神保健局長 レンツォ・デ・ステファニ氏
【2】 倉敷市真備町“岡山マインド「こころ」”の20年間の取り組みとその意義
NPO法人岡山マインド「こころ」代表 多田 伸志氏
【3】 当事者の語りから学ぶ イタリア、大阪、倉敷市真備町から
「入院中の方のお話をおききすること」
認定NPO法人 大阪精神医療人権センター 副代表 山本深雪氏
他5名程度 ※詳しくは裏面をご覧ください。

【申し込み】 <https://forms.gle/cT2X2TzbnnefTE667>

【問い合わせ先】

東北福祉大学総合マネジメント学部：石塚裕子

e-mail：yuko-i(アットマーク)tfu.ac.jp



↑申し込みはこちらから↑

◆開催趣旨

日本のまちづくりは、地域生活において社会的障壁を感じることなく多様な活動ができる強い市民を対象にしてきました。物理的にも精神的にも社会的障壁を感じ、地域生活に困難のある「小さな声の人」は参加できていませんでした。しかし、2018年に起きた西日本豪雨の被災地である倉敷市真備町では、災害からの復興過程において、小さな声の人である精神に障害のある人が、地域の担い手として活躍しています。なぜでしょうか？

本セミナーでは、精神に障害がある人の地域移行が世界と比較して遅れている日本で、真備町では精神に障害のある人が、地域の担い手になぜなれているのか、地域の暮らしと治療とはどのような関係があるのかを、明らかにしたいと思います。そして、精神に障害のある人が、一人でも多く地域で暮らし、地域の担い手になることをめざして開催します。

謎を解く一つのキーワードは「対等性」です。当事者と医療福祉の専門家との対等性、当事者と地域市民との対等性、そして当事者と当事者の対等性が、どのように担保されているのか、また、どうすれば担保できるのか、イタリア・トレント市と倉敷市真備町の事例を通じて探求します。遠く離れた精神医療の先進地といわれるイタリア・トレント市での「ファーレ・アッシメーレ（みんなでやろう!）」の取り組みに学び、地域に根付き、当たり前前の暮らしを重ねてきた「岡山マインド「こころ」」の取り組みとを比較しながら、その解を探していきます。

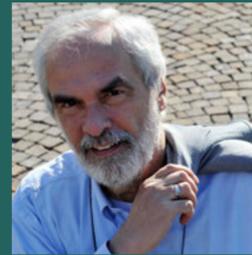
◆プログラム詳細

14:00 開会/14:02 開催趣旨説明 (石塚裕子・東北福祉大学)

14:10 基調講演①

イタリア・トレント市 “ファーレ・アッシメーレ（みんなでやろう!）”の20年間の取り組みとその意義

元トレント市精神保健局長（精神科医） レンツォ・デ・ステファニ氏



レンツォ・デ・ステファニ氏



多田伸志氏

14:50 基調講演②

倉敷市真備町「岡山マインド「こころ」」の20年間の取り組みとその意義
NPO法人岡山マインド「こころ」代表 多田 伸志氏

15:30 休憩(15分)

15:45 当事者の語りから学ぶ イタリア、大阪、倉敷市真備町から

「入院中の方のお話をおききすること」山本深雪氏

「当事者を経験し当事者の力を活かして仕事をする（仮）」アンドレア・プエケル氏

「被災地した僕たちのまちで僕たちがしてきたこと（仮）」矢吹顕孝氏

「自分の得意分野を活かし働くことの喜び（仮）」マリア・チェッラマーレ氏

など複数名から



山本深雪氏



アンドレア・プエケル氏

17:15 地域づくりにおける精神障害のある人の役割と期待

コーディネーター：石塚裕子

コメンテーター：参加者全員

18:00 閉会



マリア・チェッラマーレ氏



矢吹顕孝氏

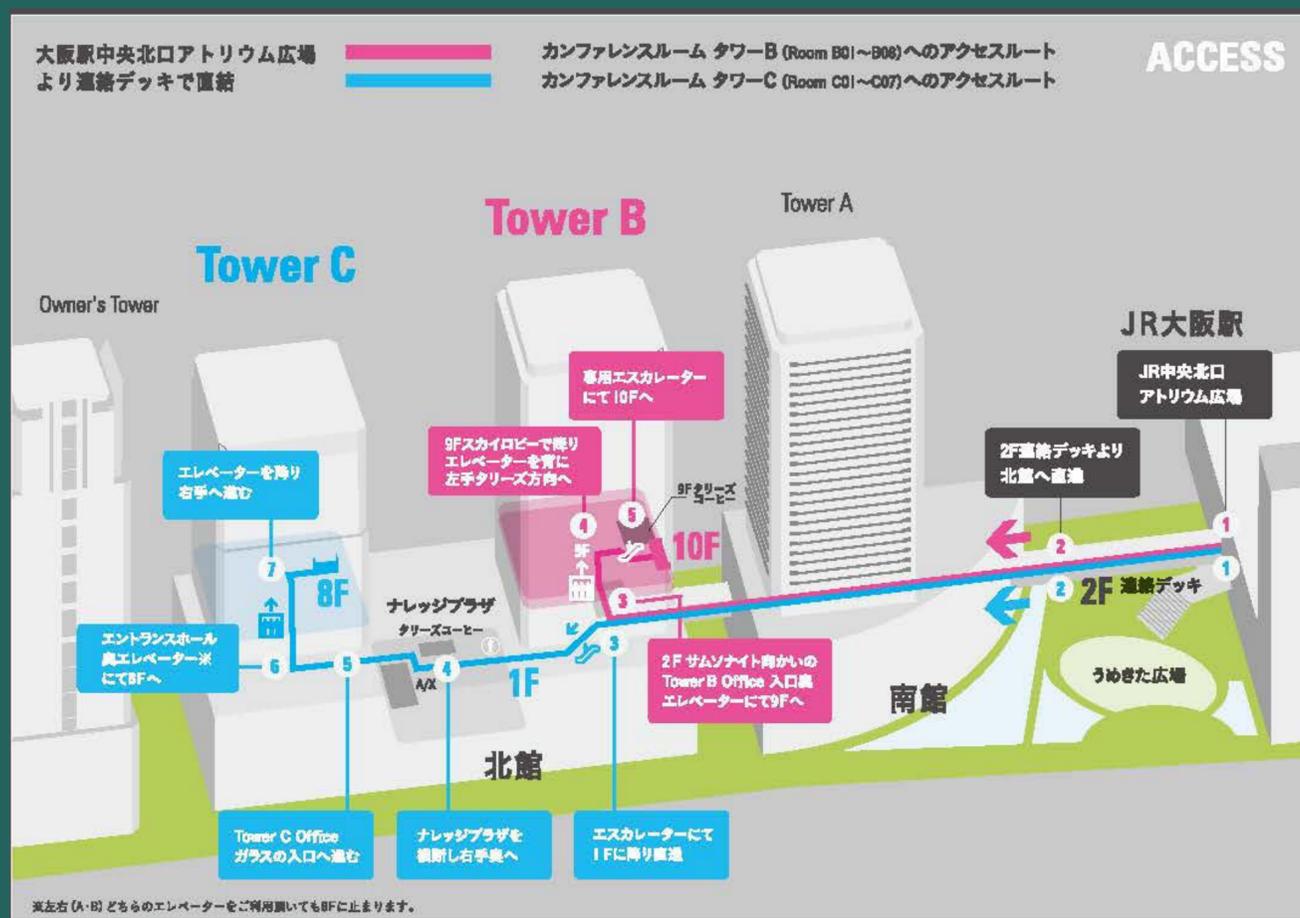


ジョヴァンニ・フィリオーリ氏
(当事者家族)



マッシモ・コスタ氏
(教育福祉士)

◆会場のアクセスマップ



アクセスの詳細はこちらから



科研費
KAKENHI